



理工学部では国内外トップレベルの最新の研究施設・設備を整備。ロボットや人工知能など最先端研究が行われている。

この他にも相模原キャンパスを中心に、青山学院大学発の技術の存在感を一層高めるため、さまざまな改革が行われている。2018年度にはAI研究の拠点となる先端情報技術研究センターを設置。ここでは理工学部を中心に、AIに関する教育研究活動をグローバルに展開している。さらに、理工学研究科では、データサイエンス

活動に参加しながら地域づくりを体験する。そのために地域の実情や課題の背景を学び、実習を通して「考え、行動する力」を身につけることを第一の目標としている。

卒業後は地方公務員、地域振興に関する独立行政法人、NPOなどを中心に、一般企業や起業家などさまざまな進路がイメージされる。自治体と地域、企業と地域との連携を担い、常に地域に寄り添えるような人材の輩出を目指している。

時代のニーズに応える先進的な研究を推進

テイスト育成の教育プログラムも展開している。今後、生涯を通じて健康に過ごすための心や体、社会のあり方を探る「ジェロントロジー」に関する研究所も開設。これらに拠点を、時代のニーズに応える研究を加速させている。

また若手研究者への支援として「若手研究者育成奨励学金」を新設。これは、青山学院大学大学院の博士後期課程入学者、一貫制博士課程3年次進級者等の、授業料年額の全額を給付するもの。さらに、国際学会発表のための渡航費補助を目的とした「国際学会発表支援制度」も新設し、優秀な学生のバックアップを行っている。

科学誌「Nature」の特別企画冊子「Nature Index 2018 Japan」(2018年3月発行)では第5位にランクイン。このランキングは、2012〜17年にハイレベルな学術誌に掲載された論文数の割合が高い大学を表している。青山学院大学の研究内容が高品質な科学雑誌に極めて効率よく発表されていることが示された。

さらに進化する「グローバル」な取り組み

「英語の青山」と言われるように、各学部で独自のグローバル教育を実践している。

国際政治経済学部では、英語で学ぶプログラムなどを開講。地球社会共生学部では、タイ・マレーシアを中心とした大学への半期留学を実施。さらに、文学部英米文学科では、語学や専門科目の大半を英語で学ぶ「P.E.S.E」プログラムが導入されたほか、英語実務のプロフェッショナルの養成を目指す「通訳・翻訳プログラム」も実施している。理工学部でも英語のみで教育・研究を行う体制を拡充し、学生の英語力を伸ばす取り組みに尽力している。今後の計画として、専門科目を英語で教える教員を積極的に採用することで、海外からの留学生もより一層増えることが期待されている。

また、グローバル化推進のため、教育環境の拡充と整備を進めている。日本語や外国語に

地域貢献・先進的研究・確かな実績で日本を牽引する「世界のAGU」へ

近年、青山学院大学では相模原キャンパスを中心に、「コミュニティ人間科学部」の新設や理工系分野の強化など、さまざまな改革を実施している。今後の展開はどうなっていくのか。

2019年に開学70周年を迎える青山学院大学は、青山学院のスクール・モットー「地の塩、世の光」のもと、時代を先取りする教育を展開し、社会に仕え、人と社会のために未来を切り開く人材の育成に尽力してきた。

2019年4月、コミュニティ人間科学部開設

青山学院大学には青山キャンパス(東京都・渋谷区)と相模原キャンパス(神奈川県・相模原市)がある。人文・社会科学系の学部生が学ぶ青山キャンパスは、文化施設の点在する利便性の高い場所に位置している。もう一つの相模原キャンパスには、理工学部、社会情報学部、地球社会共生学部に加え、2019年4月、新たに「コミュニティ人間科学部」が開設された。

新学部開設の背景には、日本が抱えるいくつもの深刻な問題がある。地方都市の過疎化や少子高齢化、産業の衰退、環境問題など、放置すればいずれは大都市にも波及している。



2019年4月にコミュニティ人間科学部が開設された相模原キャンパス

くことが予想される重大な事態だ。これらの課題解決に取り組むため、地域の価値を知り、それを継承し、地域活性化のリーダーとなって貢献できる人材の育成がコミュニティ人間科学部の目的だ。

学生たちは、「子ども・若者活動支援」「女性活動支援」「コミュニティ活動支援」「コミュニティ資源継承」「コミュニティ創生計画」の5つのプログラムから重点的に学ぶ専門領域を選択し、必要な科目を履修することができる。主な特長は、徹底した少人数制教育と、地域実習が必須であることだ。学生約8名に教員1人がついて実習を行い、単に「地域に出掛けていく」のではなく、博物館や青少年教育施設、社会教育施設などで地域

社会情報学部で将来を探求・発見

亀井千聖さん
2019年3月
社会情報学部社会情報学科卒業
(損保系生命保険会社就職)



相模原キャンパスにある社会情報学部は、数学や情報、経済、心理などの多彩な領域を学びながら将来の可能性を広げることのできる学部です。学ぶ環境が豊かであり、自分のやりたいことをじっくりと考えながら探求することができます。私は、金融工学の理論的背景の一つである数理ファイナンスや確率論が専門の、伏屋広隆先生のゼミに所属し、「天候デリバティブの開発」というテーマで卒業論文を作成しました。先生の熱心なご指導のもと、仲間と刺激し合いながら研究に臨みました。また得意なことや苦手なことなど、自分のことをより一層認識できるようになったことは大学生活で成長した部分だと思います。就職活動においては、大学のサポートも厚く、活動が本格化する前にガイダンスや、相模原キャンパスでの企業説明会などがあり、モチベーションを維持し、前向きに取り組む一助となりました。卒業後は学んだ知識を活かし、保険業界で何事にも挑戦していきたいです。社会情報学部では、尊敬できる先生や友人と出会い、切磋琢磨してきつと自分の納得のいく将来を見つけることができるはず。受験生の皆さんを応援しています。

相模原キャンパスで自分の夢を実現

安達紘子さん
2019年3月
理工学研究科理工学専攻電気電子工学コース博士前期課程修了
(自動車メーカー就職)



私はメーカーの研究・開発職を目指していたため、就職率の高い理工学部を志望し、大学院に進みました。そして「居眠り運転防止を目的とした、ドライバーの眠気計測技術」について研究しました。私自身は自動車の運転が苦手でしたので、そんな私でも安全に運転できる信頼できる自動車を開発したいと考え、日々研究に取り組みながら課題を追究し、試行錯誤を繰り返すことで視野が広がっていききました。高校時代は人前で発表することが苦手でしたが、研究室の野澤昭雄先生の温かいアドバイスのもと、学会発表を何度も重ねるうちに克服しました。専門知識の習得により、自信を持てるようになったからだと思います。青山学院大学理工学部は、オンとオフの切り替えができるバランスのとれた学生が多いと感じます。私も研究活動の合間には、芝生の広場で気分転換にキャッチボールなどをしていました。相模原キャンパスの研究施設・設備は最新のものが多く魅力です。将来は自分の夢を実現するだけでなく、世の中のためになる新しいモノを開発したいです。

伝統的に強い青山学院大学の進路・就職実績

早慶上智 MARCHの中で 実就職率 No.1 (2018年3月卒業生)

(株)大学通信調べ サンデー毎日2018.8.5号

- 1 青山スタンダード科目(全学共通教育システム)で1年生向けに「キャリアデザイン・セミナー」(2年次以降も約20の関連科目)を用意し、卒業後を考える
- 2 一人ひとりに親身に対応する個別相談で、納得のいく進路決定を目指す
- 3 年間400回以上の就職関連プログラム
- 4 年間1,200社の企業が参加する学内企業説明会
- 5 オリジナルの就職関連ポータルサイト「Web Ash」で独自の就職情報を提供
- 6 約35万人のOB・OGネットワーク 「業界研究会」「模擬面接会」「OB・OGとの交流カフェ」での支援活動